

〔72〕 超大作 『ニーベルングの指輪』 & 『ラ・バヤデール』

ベルリン国立バレエ団創立の意義

2005年7月2日 東京新聞 夕刊

規模にしてドイツを誇るバレエ団が初来日した。いまの東京はたぶん世界でも一、二を争うバレエ市場なのに、どうしていままで来日の機会がなかったのだろうかと思つて当然だが、じつはこのバレエ団、二〇〇四年一月に創立されたばかりなのである。

歴史をさかのぼると、バレエ団の多くは国王もしくは領主の宮廷劇場の中に作られている。バレエより遅れてオペラが発祥し、それが人気を得て、劇場のことをオペラハウスと呼ぶようになったので、バレエ団の名称もオペラ劇場付属となった。現在でも由緒ある古いバレエ団がパリ・オペラ座バレエとか、ウィーン歌劇場バレエなどと呼ばれているのはそういうわけである。

ドイツでも事情は変わらないが、しかし音楽好きの国民らしくオペラ優先、バレエは添え物という風が強い。その結果、バレエ隆盛の二〇世紀に、首都ベルリンには世界に誇る大バレエ団が存在しなかった。そこで既存の

〔72〕 超大作 『ニーベルングの指輪』 & 『ラ・バヤデール』

ベルリン国立バレエ団創立の意義

2005年7月2日 東京新聞 夕刊

三つのオペラハウス、すなわちドイツ国立歌劇場、コーミッシェ・オペラ、ドイツ・オペラ・ベルリンの付属のバレエ団を統合して、新たにベルリン国立バレエ団として発足したのである。オペラから完全に独立したバレエ団というのは、世界的に見ても新しい発想だ。

現代バレエに関しては、ドイツにはピナ・バウシュやジョン・ノイマイヤーなど個性的な振付家に率いられるカンパニーがあって、世界的な名声を誇っている。しかし古典バレエは確かに少々弱体だった。そうしたことも視野に入れ、レパートリーに古典作品を揃えた大規模バレエ団を、というのが創立のビジョンであるようだ。

このベルリン国立バレエ団の芸術監督に就任したのがウラジーミル・マラーホフである。現在、おそらく世界でトップの人気と実力を持っているスターダンサーで、日本でも昨年末の人気投票で第一位だった人だから、今回の来日公演も「マラーホフ率いる」 というキ

〔72〕 超大作『ニーベルングの指輪』 & 『ラ・バヤデール』

ベルリン国立バレエ団創立の意義

2005年7月2日 東京新聞 夕刊

ヤッチフレーズが前面に出て、バレエ団創立の意味は二の次になりそうな気配だが、しかし実のところこの新バレエ団出現は、統一ドイツと同じ程とは言わないまでも、バレエ史上特筆すべき大事件であることは確かである。

*

さてその公演の内容だが、さすがと言うべきか、『ラ・バヤデール』と『ニーベルングの指輪』の超大作二本立て。古典と現代作品を両輪にという大バレエ団のあるべき理念をしっかりと実行している。

Aプロのマラーホフ改訂による『ラ・バヤデール』は抑制の利いた正攻法の演出で、ロシア・バレエらしい情感という点ではやや物足りないが、なにしろダンサーたちの長く強靱な脚が大変に美しい。結成まもなくしてこれほどテクニクの水準が高いとは頼もしい限りだ。マラーホフの指導のもと、固有のカラーやスタイルが形成されていくことを期待したい。

〔72〕 超大作 『ニーベルングの指輪』 & 『ラ・バヤデール』

ベルリン国立バレエ団創立の意義

2005年7月2日 東京新聞 夕刊

Bプロの『ニーベルングの指輪』には脱帽した。この作品は振付のベジャールのカンパニーが最も充実していた一九九〇年に初演されたもので、高い評価を得たが、その後はこの作品を上演できるカンパニーがなかった。それをベルリン国立バレエ団が、ベジャールがいまだ健在であるうちに再演したのは、バレエ団としても快挙、振付家にとっても望外の幸せだったにちがいない。

バレエ『指輪』はワーグナーのオペラ全四作を通して上演、弁者がドイツ語で場面を説明し、台詞を代行するので、わかりやすい。バレエの稽古場に見立てた装置で、ピアノとテープ演奏と解説が中断されては交錯する構成は、いかにもベジャールらしく軽妙である。

ぜんぶで四時間半を超える舞台はたしかに長丁場だ。しかしワーグナーのオペラ四作を一挙に貫通した後のカタルシスもまた相当に大きい。ヴォータン（シュピレフスキー）やブリュンヒルデ（ヴィシニョーワ）、ジークフ

〔72〕 超大作『ニーベルングの指輪』 & 『ラ・バヤデール』

ベルリン国立バレエ団創立の意義

2005年7月2日 東京新聞 夕刊

リート（バンツァーフ）などオペラでおなじみの役柄をダンサーたちの細身で長身の肢体がさらに輝かしく感じさせ、美声に堪能できない不足を補ってあまりある。

何と言っても原作がワーグナー。ドイツのバレエ団にしてみれば、この作品は国民的バレエのように感じられて当然だ。二〇世紀、世界の大バレエ団はそれぞれに固有の国民的な作品をレパートリーの柱とするべく力を注いできた。そういう意味では、このベルリン国立バレエ団は、創立と同時に国民バレエに恵まれた幸運なカンパニーだと言えるだろう。